

先人の知恵から

37

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

「さ」行がもう終わるところまで来た。やっと三分の一くらいか？少しずつスピードアップを目指そうと思ってはいるが中々思うようには進まない。先に掲載したものと同じような内容にならないように、チェックをするのがだんだん大変になってきた。それでも最後まで何とか頑張ろう。

今回は「せ」のところから以下の8つ。

- 尺蠖の屈するは伸びんがため
- 切磋琢磨
- 節制は最良の薬
- 雪中の松柏
- せつない時は親
- 窃鉄の疑い
- 背に腹はかえられぬ
- 狭き門より入れ

＜尺蠖の屈するは伸びんがため＞

将来大きく飛躍するためには、しばらく我慢して時機を待つことも必要であるということ。尺取り虫が体を縮めるのは、次に体を大きく伸ばして前進しようとするためであるという意から。思うようにいかなかったり、他に後れを取ったりして自信を失っているものを励ます場合などに言う。尺蠖＝尺取り虫。「しゃっかく」とも読む。

出典 易経

尺取り虫は例としてわかりやすい。縮んで伸びてを繰り返して前に進む。時には立った状態でどちらに行くか迷っているように見えるときもある。人の成長、発展を見ていると、尺取り虫と重なることが多い。

兎角親というものは、子どもに多くを期待し、焦りやすい。ちょっとでも滞っているとすぐはっぱをかける。しかし、子どもには

子どものペースがある。身長が伸びる時も、少し横に太ってからずんと伸びる子も多い。一人ひとり伸びる時期、伸び方は異なる。勉強などについても同様。中々点数が上がらない時があって、そこであきらめずに努力を続けていると、突然ぐんと伸びる時がある。その時を待つことも大事。大きくジャンプするためには大きく縮んで、飛び上がるのと同じである。時代は変わっても、親にかける言葉は変わらない。焦りがちな保護者にこの言葉を伝えることが多い。

<切磋琢磨>

学問・道徳・技芸などを磨き上げること。また、仲間同士が互いに励まし合い、競い合っ
て向上をはかる事。切磋＝玉や石、骨などを切
って、やすりなどで磨くこと。琢磨＝玉
などを細工して研ぎ磨くこと。

出典 詩経

この言葉は有名で、努力する必要がある場面では、教師や指導者がよく使う。この言葉は、「よく学び、頑張れ！」という意味だけではなく、仲間同士が互いに励まし合うという意味がある。競い合っ
て向上をはかる事という意味もある。その意味を忘れがちで、ついつい「努力」「頑張る」ことばかりに使われる。励まし合う仲間の大切さ、一人だけで孤独に頑張るのではなく、仲間と一緒に、支えあい、認め合いながら向上することが大切である。仲間がいることで、より視野も広がり、様々な視点から物事をとらえられることにもつながる。一人で頑張っているだけでは限界があるのだ。仲間と話

しながら、互いに高めあうことが、より大きな成長に繋がる。子どもたちに、仲間を作ることの大切さを伝えるためにこの諺を使っている。

<節制は最良の薬>

日頃から体のためによくないと思うことを謹んで、健康に気を配り日々を暮らすのに勝る健康法はないということ。英語の諺が語源。

この諺は、外国から輸入された格言である。日本人は全体に薬を飲みすぎる傾向にあるといわれている。体を健康に保つためには、できるだけ薬を使わずに、日ごろから調子を整えることが大事である。体の様子に気を配り、脳に騙されずに体の様子に従って、休養を取ったり、食を制限したりすることで、健康体を維持できる。しかし、多くの人は、体のことを無視して、「まだ大丈夫」「まだ頑張れる」と無理をし、相当悪くなってから病院に行くため、結局薬の世話になっている。

鬱で相談にいらっしゃる方など、ほとんどがこのタイプである。まじめで頑張り屋さんだからこそ、体は悲鳴を上げているのに、無視して頑張っ
て、中等度以上の鬱の状態
でカウンセリングに来談される。

子どもたちにも同じことが言える。おなか
が痛くなったり、頭が痛くなったりしていても、市販の薬を使っ
てごまかして
いけば、悪化する。学校不
適応を起こして、この症
状が出ているのなら、休
むことが第一である。休
んで元気になる事のほう
が、無理し

て学校に行って悪化させるより良いのだということ、保護者にわかってもらおうと、子どもたちは大抵元気になる。頑張ればなんとかなるというのは昭和に育った人たちには通じるが、平成以降に育っている若者たちにはあまり通じないということも、我々支援者は知っていなければならない。

何事も、頑張りすぎはよくない。「過ぎたるは及ばざるが如し」の諺と一緒に使うことが多いように思う。

英語では・・・

Temperance is the best physic.

＜雪中の松柏＞

節操が極めて堅いこと。また、人の値打ちは困難に出会ってはじめてわかるたとえ。松や柏は常緑樹で、寒い雪の中でも葉の色を変えないことから。

出典 しゃほうとく 謝枋得

子育て中の保護者にとって、日々、困難の連続という方も多い。子どもたちの反応に右往左往してしまう。子どもたち自身が、いろいろな刺激や出来事の中で、右往左往しているのに、保護者も一緒に動揺しているのは、収まるものも収まらない。動揺している保護者の面談の際に、この言葉を出して説明している。「どんと構える」ことの大切さを。世の中、大抵のことは「何とかなる」のだ。

＜せつない時は親＞

苦しくなったとき、頼りにするのはやはり親であるということ。また、苦境に立った時、親を口実に使って逃れること。

親子関係が悪いという保護者にちょくちょく出会う。保護者自身、自分の親との関係が悪いことも多い。子どものことで相談にいらしていても、「今思えばあれは虐待だった」とか「自分は愛されていなかった。」「姉や兄との比較がひどく、扱いも違った」等々、自分の親への恨みつらみを話し出す。親との関係は悪くても、お産扱いでとりあえず実家に里帰りした方もいるし、全くかわりのない方もいる。親を憎み、排除し、断絶している人もいるが、心の奥底では、親を求めているのがわかる。

親と改めて対峙する方もいるが、親は歳をとって、今更過去のことを言われても覚えてもないし、喧嘩になってしまうこともある。ただ、自分の思いを吐き出すことで、うまく処理ができる場合もあるし、孫の出産を機に、関係性が修復するケースもある。

たとえ虐待した親であっても、親は親。子どもにとって、どんな親でも、親である以上、関係性を完全に断つことは難しい。辛い時に、話を聞いてくれるだけでも親はありがたい存在なのである。ただ、聞いてくれればよいのに、「もっと頑張れ」「だらしがない」と非難するようでは、愚痴もこぼせなくなり、若い母親たちが追い込まれてしまう。そういう時は「近くの他人」のほうがよほど頼りになるが、心の奥底では、やはり、親を求めているのだということ、親たちに知ってほしい。

<窃^{せう}鉄の疑い>

何の証拠もなく人を疑うこと。何事も疑いだすときりがないことのとえ。

出典 列子

最近 SNS での誹謗中傷が兎角問題になりやすいが、それゆえに、子どもたちは余計過敏になっていて、ちょっとしたことで、「嫌われたのではないか?」「この言葉は私を非難しているのではないか?」などと不安が増大してしまう。ひとたび、マイナスにとらえると、次から次へとマイナスな要素を探し出すのは得意な様子で、際限がない。「思えばあの時のあの言葉も、私のことが嫌いだから言ったのだ」と過去のことまで穿り出して、探し出す。そんな時にこの言葉を伝える。今のあなたの状態はこれであると。

信じて裏切られて傷つくのが怖いからと、人を信じない子も増えている。人間傷つかなければ大きくも強くもなれない。傷つくことを恐れてはいけない。「人を信じて、裏切られて、自分だけが傷つくことで済むならそれでよい。」と思えると、強くなる。人を疑って孤立するより、人を信じて、人の中にいるほうが、人の信じ方も学べるし、自分の守り方も学べるのにと思う。

過敏な現代の子どもたちにこの言葉を送りたい。

<背に腹はかえられぬ>

大切なことのためには、ほかのことが犠牲になるのもやむを得ないというたとえ。また、「背」を他者に、「腹」を自分自身とし

て、切羽詰まっては、どうにも他を顧みる暇がないことのとえにも使われる。同じ身体の一部でも、大事な内蔵の入っている腹を、背中を守るために犠牲にすることはできないの意から。「背中に腹はかえられぬ」ともいう。

出典 いろはがるた(江戸)

何が今大切かと問うと、うまく答えられない人が多い。あれもこれも大切で、どれも捨てられないのである。別に捨てろというわけではなく、何を第一に考えるかということ問うているのである。

例えば子どもが不登校になると、保護者は焦って、何とか学校に行かせたいと思ってしまう。学校に行ってくればそれで良いのか?学校に行くことは、子どもの命を守る事よりも大事だろうか?

子どもは、なぜ学校にいけないかをうまく説明できないために、ただの「わがまま」、とか「根性なし」などと思われて、引きずられ、無理やり車に乗せられて学校までくるものの、頑として車から降りないなどということは、ごく普通の光景になっている。

学校に行かないことで困るのは、本人自身であるが、保護者の面子の問題のほうが大きいのではと思う。子どもが不登校になるのは、親の育て方の問題だと思っているから、余計に子どもを無理にでも学校に行かせようとするのだろう。

確かに、子どもたちもわがままにはなっているかもしれない。しかしそれは、世の中全体、社会全体が、子どもに甘くなっているからでもある。

自分の家だけの問題ではない。

大切なのは、子どもの命である。子どもが

自殺してしまうこの時代、学ぶことは後からでもできるが、命は一つしかない。生きること、生きていること、生きていけること、そこを第一に考えていくと、不登校など大した問題ではなくなる。

平和な時代、平和な国で生活しているからこそ、学校のことが問題になるが、ウクライナのように、生きるか死ぬかの世界にいる人にとって、学校に行くことなど3の次の問題なのだ。

英語では・・・

Better the purse starve than the body. (胃の腑が空になるよりも、財布が空になるほうがよい。)

<狭き門より入れ>

ことをなすのに楽な方法をとるよりは、難しい苦しい方法をとるのが自分を鍛え上げるのによいということ。

出典 「新約聖書」また遺伝第7章

前述の通り、日本は平和で、命の危険に脅かされることは少ない。もっとも今はコロナの問題はあるが、それも軽症で済む人が多いので、そこまでの問題でもないかもしれない。早く飲み薬ができてほしいものだ。

話が逸れたが、子どもたちが二言目には、「めんどい」ということに危惧を覚えているのは筆者だけであろうか？

小さい時から、車での送り迎え、好き嫌いは言い放題、何でも欲しいものを与えられてきた子どもたちが多く中、面倒なことをコツコツと頑張ることが苦手になっている

ように感じる。

楽を覚えてしまうと、苦しいことはどうしても苦手で避けるようになる。だからこそ、小さいうちは、面倒なことをコツコツさせることが大切である。それを、タブレットを使い、インターネットで調べ、あつという間に物事を調べられるような時代になってしまうと、国語辞典を端から引いたり、中々答がみつけれずに、図書室に行って調べたりという、面倒なことをしなくなる。

便利さというのは、大人のために必要なものであるが、子どもには不便さが必要に思っている。そんなことから、この言葉を、保護者たちに伝えている。以前にも同様の言葉を載せているが、いろいろな言葉があるのでここでも載せさせてもらった。世界共通の言葉でもあるから。

英語では・・・

Enter by the narrow gate. (狭き門より入れ)

出典説明

易経・・・十二編・

周代の占いの書。儒教の五経の一つ。経文とその解説書の「十翼」を合わせて十二編より成る。陰と陽を組み合わせて八卦、これを重ねた六十四卦によって、自然と人間の変化の法則を説いた書で、中国の哲学思想のもとになった。作者として、周の文王、周公、孔子があげられるが確かではない。

詩経・・・

中国最古の詩集。五経の一つ。孔子が約三千の古詩の中から選んで成立したと言われるが未詳。紀元前十世紀から前六世紀ごろまでの詩三百十一編（内六編は題名のみ）を収録。風（国風ともいう。民謡）・雅（宮廷の祝宴歌）・頌（祖先を祭る歌）の三部構成。

儒教の教典。『論語』『孟子』『大学』とともに

いろはがるた・・・

「いろはがるた」は江戸時代後期に始まったといわれ、いろは四十七字に「京」の字を加えた四十八字を頭にして諺の内容を絵解きした絵札の、計九十六枚を一組として遊戯にしたもの。主に子どもが正月に遊ぶ。

各地で内容が異なっていることがある。今回出した「す」のカルタは京都のもので、江戸では「糶は身を食う」、大阪や名古屋では「墨に染まれば黒くなる」となっている。

謝枋得・・・

1226年～1289年は、中国南宋末期の政治家・学者。字は君直。号は壘山。諡は文節。信州弋陽県出身。中国南宋の政治家・学者。

人柄は豪壮にして博覧強記で直言を好み、常に古今の国家存亡について論じた。宝祐4年（1256年）に進士に及第し、撫州司戸参軍に任命されたがすぐに辞任し、呉潜

に従って民兵を集め信州を守る。宝祐5年（1257年）に賈似道を誹謗した罪で興国軍に左遷された。徳祐元年（1275年）にモンゴル軍が南下すると長江沿岸の防備を任され、南宋を守るために奮闘したが大勢を覆すことができず、国の滅亡を見ることとなる。姓を変えて諸国を遍歴し、売卜（占い）を業としながら、弟子が多くなったので閩中に住居を定め、元のクビライの旨を受けて程鉅夫から招かれたが自分が「亡国の大夫」であるとして拒絶。至元25年（1288年）第5回目の人材招致があり、魏天祐に強要され燕京に赴く。死を覚悟した謝枋得は妻子知友に七言律詩を示し、道中から絶食し翌年4月に燕京到着直後に没する。絶食死であった。

以下詩の前文。

雪中松柏愈青青 雪中の松柏は愈（いよいよ）青青

扶植綱常在此行 綱常を扶けて植（た）てるは此の行（たび）に在り

天下久無龔勝潔 天下久しく 龔勝の潔なし

人間何獨伯夷清 人間何ぞ独り伯夷のみ清からん

義高便覺生堪捨 義は高く便（すなわ）ち覚ゆ 生の捨つるに堪えんと

禮重方知死甚輕 礼は重く方に知る 死の甚だ軽きを

南八男兒終不屈 南八は男兒にして 終に屈せず

皇天上帝眼分明 皇天上帝 眼は分明

困難な環境にも耐えていける節度をもとう。人のふみおこなうべき道徳をしっかりと打

ちたてるのは、今回の旅路(の目的)である。
世の中では、ずっと龔勝きょうしょうのような潔さは、
無かった。

この世で、どうして伯夷だけが清らかなの
だろう。他に人材はないのか。

義とは、高いものであって、「生」を捨てて
もよいと、自覚している。

南齊雲は男の中の男で、最後まで屈服しな
かった。

天にいます天帝のまなこは、はっきりとあ
きらかに見抜いておられる。(以上「詩詞世
界」より)

れつし 列子・・・八巻

中国、戦国時代の思想家。名は禦寇ぎょこう。老子
よりあと、莊子より前の時代の道家といわ
れ、虚の道を得た哲人と伝えられるが不詳。
『列子』八巻の著者とされるが異説も多い。

新約聖書・・・

期限世紀から2世紀にかけてキリスト教
徒たちによって書かれた文書。「旧約聖書」
と並ぶキリスト教の正典。また、イスラム教
でもイエス(イーサー)を予言者の一人とし
て認めることから、その一部が啓典とされ
ている。「新約聖書」には27の書が含まれ
る。キリストが生まれる前までを旧約聖書、
イエス生誕後を新約聖書がまとめている。
マタイによる福音書、マルコによる福音書、
ルカによる福音書、ヨハネによる福音書が
ある。